科目名 ：	化学基礎	単位数 ： 2 単位	必要スクーリング出席回数： 8 回
使用教科書 ：：高等学校 改訂 新化学基礎 （第一学習社）			
学習書 ・副読本 ：：なし			

	年間総数	１範囲	２範囲	３範囲
レポート [R]	6 枚	2 枚	2 枚	2 枚
スクーリング [S]	18 回	7 回	6 回	5 回
テスト [T]	2 回	○	×	○
その他 （課題・実習等）				

1 担当者からのメッセージ（学習方法等アドバイス）

化学は物質と物質の変化を学習する科目です。化学基礎は、その最も基礎となるところを学習します。元素記号や化学式などの修得が必要な項目は多くあります。小数や割合、比例についての計算も必要です。（計算の苦手な人には少し難しいかも知れません。）

2 学習の到達目標

主な元素の元素記号が書けて、化学変化を化学反応式であらわすことができる。物質量の意味を理解する。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b ：思考・判断・表現	c ：観察・実験の技能	d ：知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・記述の点検（レポート）	・記述の点検（レポート）	・観察（スクーリング） ・記述の点検（レポート）	・記述の確認及び分析（レポート） ・定期考査

・年度末に５段階で評価する。

4 学習の活動

学期	単元名	学 習 内 容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1範囲	物質の構成	物質とその構成要素 物質と化学結合	○	○	○	○	a: 物質とその変化について意欲的に関心をもつことができる。 b:物質の性質を考え、科学的に考察することができる。　c:炎色反応等の実験による。 d:主な元素の元素記号が書けること、化学結合等を理解し、化学式が書けること。	・定期考査 ・レポート
2範囲	物質の変化	物質量と化学反応式	○	○		○	a:原子や分子といった粒子について関心をもつことができる。 b:化学変化を化学反応式で表すことができる。　d:それらの量的関係を理解すること。	・レポート
3範囲	物質の変化	酸・塩基とその反応 酸化還元反応	○	○	○	○	a:酸や塩基を示す物質について、それらの特性に関心をもつことができる。　b:中和反応を化学反応式で表すことができる。　c:中和滴定の実験等を通して基本操作や技能を習得する。d:酸化数を表すことができ、酸化還元反応を理解する。	・定期考査 ・レポート

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：観察・実験の技能　　d：知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。